

「三八豪雪」の思い出

写真は朝日新聞 2 月 6 日朝刊。今年の北陸の豪雪は 1981(昭和 56)年以来だという。名古屋市立女子短大に就職して 2 年目だ。あまり記憶に残っていない。



豪雪といえば、1963 年の「三八豪雪」のことが忘れられない。名古屋から高山へ、親父の転勤で引っ越しをした冬。高山市立松倉中学校 2 年だった。とにかく一晩で 1 メートル近く雪が降り積もり、名古屋で生まれ育った者としては、びっくり仰天。朝は学校に雪かきを持って行った。学校でも雪かきばかりしていた。雪かき、すれどもすれども。大雪の除雪は、とにかく大変だったが楽しいこともあった。線路沿いの鉄道官舎の自宅庭先で、雪を積み上げてスキー遊びなどを楽しんだ。

名古屋市立大人文社会学部「現代都市問題」の講義で、この三八豪雪の映像を流した。当時の映画館で流されていたニュース映画であり、豪雪の様子を生々しく伝えていた。永平寺の雪害などに、学生から驚きの感想が寄せられた。貴重な三八映像に、私もつい「映像はエイゾー」なんて口走ってしまった。

写真下は宮本憲一『昭和の歴史 10 経済大国』小学館ライブラリー、1989 年から。除雪作業で混雑する金沢市内。



1963 年 1 月中旬から 2 月にかけて、元禄以来という大雪が日本海側をおそった。積雪量は金沢市で 181 センチにたった。石川県の雪を、5 トンダンプカーで一列にならんで運び出すとすれば、地球を 107 周するといわれた。除雪体制の不備もあって、都市の機能は完全に麻痺し、山村は孤立してしまった。1 月 24 日、北陸線は全線運休し、1 か月間にわたって不通になるという近代史上空前の交通途絶となった。金沢市の都市交通も 3 週間ストップした。燃料・主食・生鮮食料品の輸送難から物価は上昇した。

三八豪雪は元禄以来の降雪を根因としているが、その被害を拡大し深刻化したのは、高度成長による生産と生活の変化に、行政や民間の対策が適応していなかったためである。…三八豪雪は、災害が社会資本の不足や都市構造の欠陥からおこることをしめすとともに、高度成長過程における地域経済の不均等な発展＝地域格差問題を明らかにした。雪が降って孤立すれば生活困難となる経験をへて、日本海側の農村からの挙家離村がはげしくなった。それまでにも薪炭をつくる必要のなくなった山村は生業を失い、農家の流出はすでにはじまっていたが、三八豪雪は過疎化の幕を切って落としたといつてよい。

三八豪雪から 55 年。最近の豪雪による高速道路の大渋滞、経済・生活の混乱など、当時と似たような状況も。雪害のニュースを見ながら、つい三八豪雪を思い起こした。

(2018 年 2 月 8 日)